



『注文にかかると時間がかかるカフェ』

大平一枝／著
ポプラ社 ¥1,980 (税込)

吃音で言葉がスラスラ出てこないが、接客業で働きたいと願う若者たちがいる。彼らの夢を叶える「注文にかかると時間がかかる」カフェが、一日限定で、各地で開店している。開店のきっかけや、カフェで働く若者たちの様子を伝える一冊。



『光の粒が舞いあがる』

蒼沼洋人／著
PHP研究所 ¥1,430 (税込)

中学1年生の心愛は、家事が忙しい上、シングルマザーの母から交際相手との食事に誘われ息苦しい日々を送っていた。通りがかったボクシングジムでこはくに泣き顔を見られた心愛は、すっきりするからとサンドバッグを打つよう誘われる。



『本当に危ない闇バイトの話』

廣末登、芳賀恒人／監修
金の星社 ¥1,540 (税込)

10代の若者が受け子や強盗、スマホの代理購入など、闇バイトに巻き込まれた実例を漫画でわかりやすく紹介。闇組織の狙いと手口、身を守るための方法も詳細に解説している。身近な問題としてぜひ中高生に一読してほしい一冊。



『待ってろ！甲子園』

日比野恭三／著
ポプラ社 ¥1,980 (税込)

都立青鳥特別支援学校には、全国でも数少ない硬式野球ができるベースボール部がある。監督の久保田先生が、知的障がいのある子どもと野球がしたい、という強い思いで始めたのだ。甲子園出場を目指す球児と監督を描くノンフィクション。



『モネと睡蓮』

ベアトリス・フォンタネル／文 アレクサンドラ・ユアール／絵 松井文恵／訳
世界文化社 ¥3,190 (税込)

印象派の画家モネが、ジヴェルニーにある自然豊かな庭がある家で暮らし、晩年白内障を患いながらも池を描き続け、傑作「睡蓮」を生み出すまでを描いた絵本。モネの日常や人柄、庭の小さな動植物までいきいきと再現されている。



『闇に願いを』

クリスティーナ・スートンヴァット／著 こだまともこ、辻村万美／訳
静山社 ¥1,980 (税込)

舞台は架空の街チャッターナ。窃盗犯の母親から産まれた少年ポンは、刑務所の外に出ることができない。自由を求めて脱獄した彼は、街の真実を知る。不公平な世界に勇気をもって声をあげる人々の姿を魅力的に描いたファンタジー。



『ヤングタイマーズのお悩み相談室』

石川宏千花／作
くもん出版 ¥1,650 (税込)

中学生と中学生が家族にいる人向けのラジオ番組「放課後の放課後」。中学生だけが応募できるお悩み相談コーナーでは、十人十色の悩みにパーソナリティーが回答する。投稿した6人の中学生がラジオを通して自分に向き合う様子を描いた小説。



『私は十五歳』

アズ・ブローマ／原案 なるかわしんご／絵 駒井知会、指宿昭一／監修
イマジネーション・プラス ¥1,870 (税込)

戦争のため祖国から逃げ出してたどりついた日本で、在留資格を剥奪され、「仮放免」となった高校生が書いた作文を原案に作られた絵本。バイトも推し活もしたい、という夢を抱きながら、現実と向き合う15歳のメッセージが胸を打つ。



『選挙、誰に入れる？』

宇野重規／監修 Gakken ¥1,650 (税込)

『もしもミツバチが世界から消えてしまったら』

有沢重雄／著 中村純／監修 旬報社 ¥1,870 (税込)

『透明なルール』

佐藤いつこ／著 KADOKAWA ¥1,650 (税込)

『森と、母と、わたしの一週間』

八束澄子／著 ポプラ社 ¥1,540 (税込)

『ネットでいじめられたら、どうすればいいの？』

春名風花／著 河出書房新社 ¥1,562 (税込)

『野生生物は「やさしさ」だけで守れるか？』

朝日新聞取材チーム／著 岩波書店 ¥1,034 (税込)

『みかんファミリー』

柳月美智子／著 講談社 ¥1,760 (税込)